

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 11 月 5 日 10:03 AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～39,900 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 39,800～42,600 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 16,900～18,600

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～154.180 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～104.799

エリオット波動とは

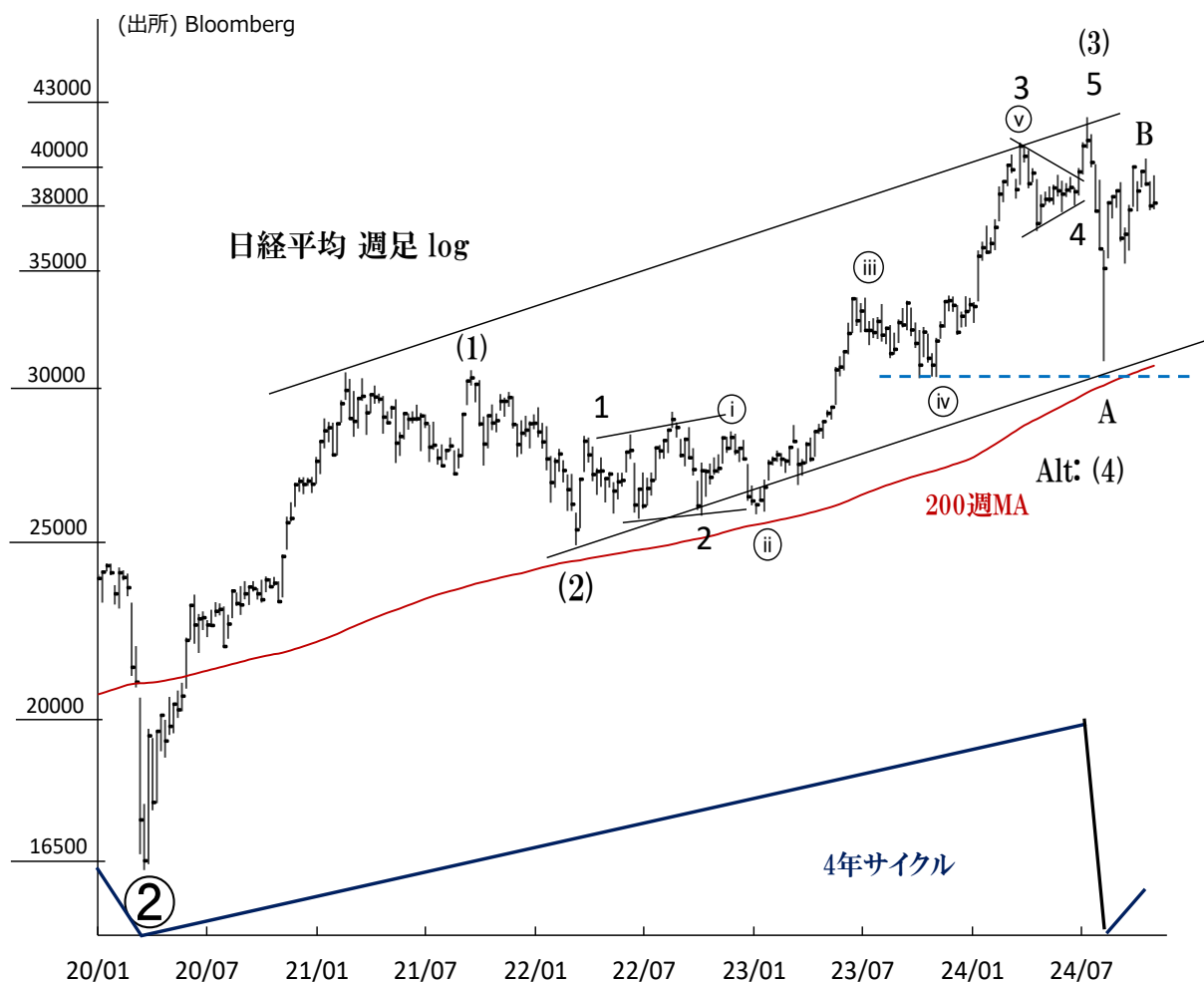
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。

中長期タームの見通しは強気を維持。来年の日経平均は、第(5)波の上昇によって 42,426 円を上抜き最高値を更新する可能性が高い、とみています。日経平均予想 EPS が初めて一時 2500 円台に増えるなど、好調な企業業績は続いており、4 万 5000 円も十分射程内にあります。

なお第(5)波の上昇は、最短で 2025 年 2 月、最長の場合 2026 年 12 月まで続くとみられます。特に 2025 年末頃までを、第(5)波による上昇期間として注目しています。



【日足 エリオット波動分析】

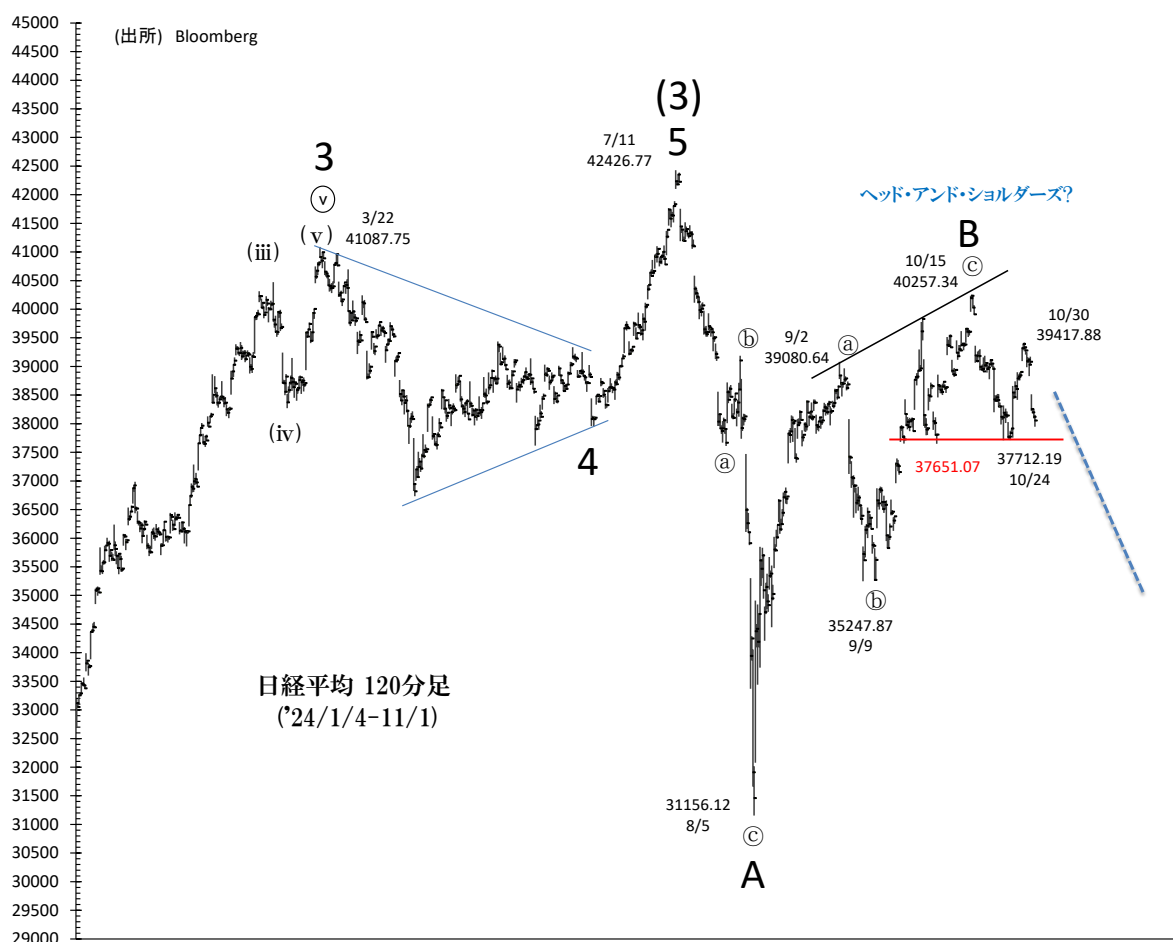
足元、日経平均予想 EPS は 2500 円付近にあります(10 月 15 日は 2514 円と最高水準を更新しています)。EPS2500 円・PER18 倍から得られる 4 万 5000 円という水準は、25 年の日経平均ターゲット候補として要注目です。

もっとも、31,156 円(8/5 安値)からのリバウンド[第(4)波中 B 波]は、40,257 円(10/15 高値)を以て終了したとみられます。10 月 15 日のローソク足『流星』と、翌 16 日のギャップダウンによって生じた『アイランド・リバーサル』により、日経平均のトレンド下方転換が強く暗示されていました。

時価総額上位銘柄で構成される TOPIX コア 30(海外投資家好みのブルーチップ株)は、8 月以降の戻り高値を 9 月 3 日に付けており、日経平均より 1 カ月以上も先に頭打ちした格好です。このようなコア 30 と日経平均の『未確認』は、主力株への売り圧力の強さ、相場全般の潜在的弱さを示唆しています。

日経平均は 40,257 円を起点に C 波の下落局面が進行中とみられます。

目先買い戻しが一巡してから日経平均は下値模索を再開し、11 月にも 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月の「一番底」に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

当面の日経平均の見通しは以下の二通りです。

[メインシナリオ] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり、そこからは C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。

11 月 1 日、日経平均は 1027 円安と急落。一時 3 万 8000 円を下回る場面がありました(この日の安値は 37,946 円)。ここから 37,712 円(10/28 安値)を下抜くと、チャートは 9 月下旬以降の [ヘッド・アンド・ショルダーズ]から下入れ開始となり、C 波による下落基調が一段と強まることになりそうです。

最終的に C 波は 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月安値に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。

なお「二番底」の水準については、フィボナッチ比率からは以下の水準に注目できます。

[34,632 円]…B 波の上昇に対し 61.8%押し水準

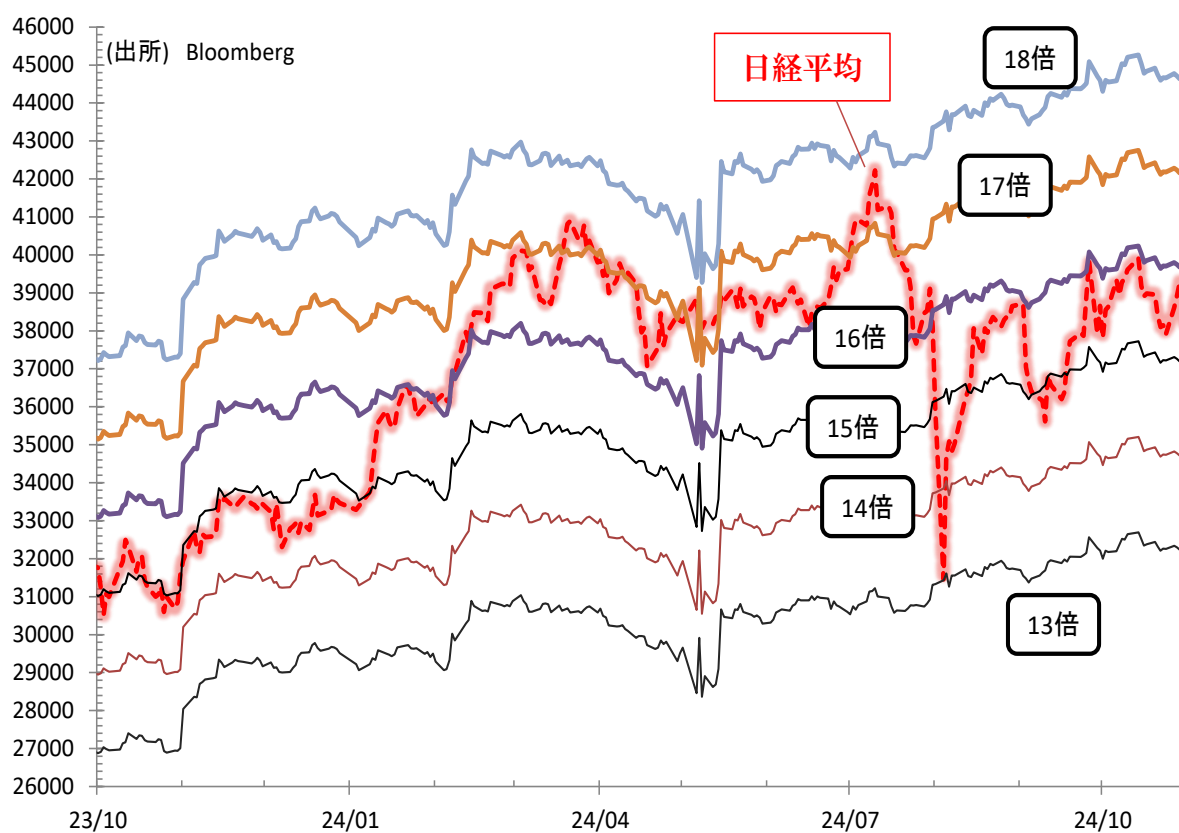
[33,304 円～33,103 円]…同 76.4%～78.6%押し水準

[サブシナリオ] 第(5)波入り～年内にも高値更新へ

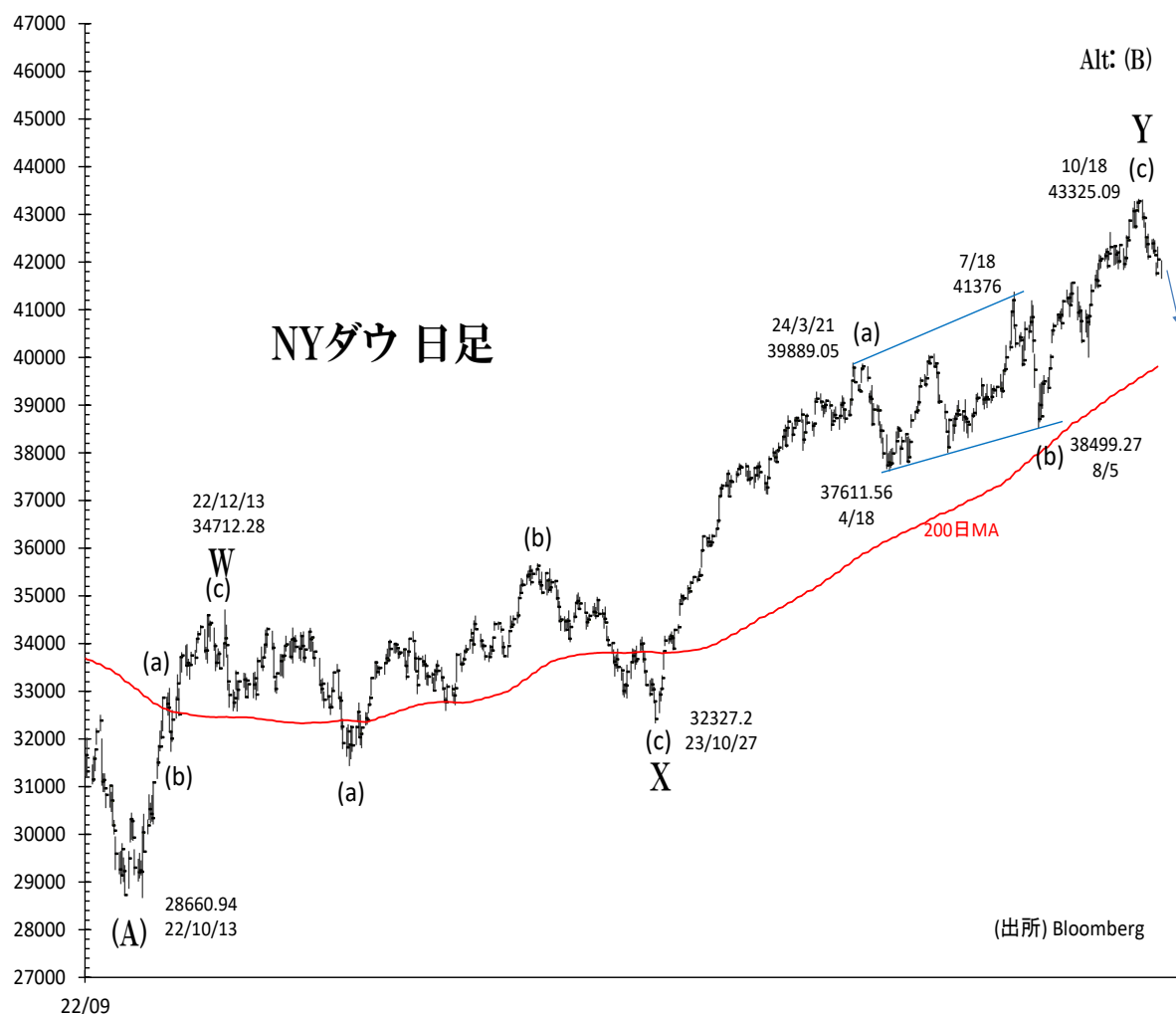
31,156 円(8/5 安値)以来、第(5)波による強気相場が進行中です。

35,247 円(9/9 安値)以来の上昇は第(5)波-第 3 波に相当します。さらに、37,712 円(10/24 安値)以来の上昇は第(5)波-第 3 波-マル iii 波(サード・オブ・サード)に当たり、それは強い上昇となるでしょう。日経平均は、年内にも 42,426 円を上回る可能性があります。

[予想 PER 別の日経平均水準]



NY ダウ



【日足 エリオット波動分析】

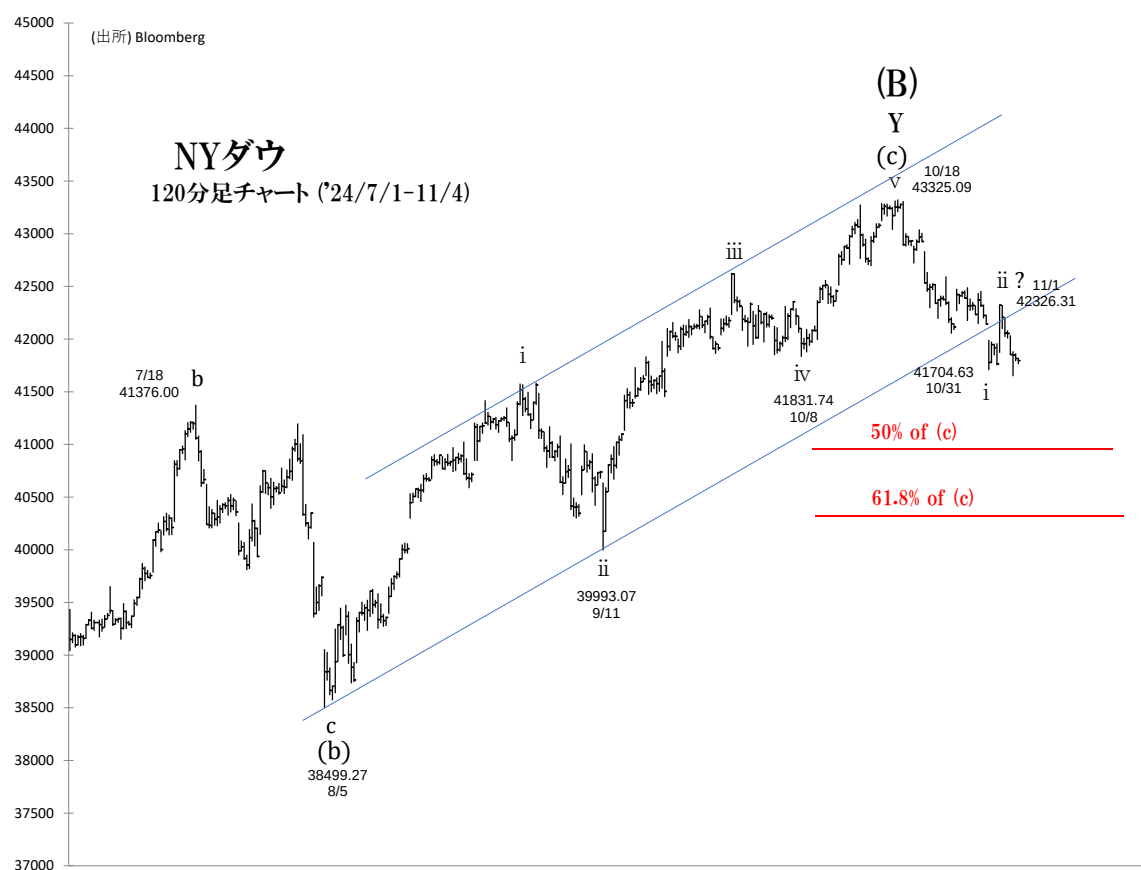
22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波は、43,325ドル(10/18 高値)を以て終了した可能性があります。(B)波のパターンはダブル・ジグザグ(W-X-Y)です。

NY ダウは(C)波の下落に入ったとみられます。(C)波による下げの規模は、22 年 1 月～10 月にみられた調整(A)波(22.4%下げ)に匹敵するか、より大きなものになると思われます。

試みに 10 月高値から 20%安下げる水準を計算すると 34,660ドルです。今後 3 万 5000ドルを割り込むことになっても違和感はありません。

なお NY ダウは 23 年 11 月から 1 年の間、200 日 MA(※)を一度も下回っていません。しかし今回の調整において 200 日 MA は、一時的なサポートに過ぎないでしょう。

※200 日 MA…39,829ドル(11/4)



【時間足 エリオット波動分析】

38,499ドル(8/5 安値)から 43,325ドル(10/18 高値)までの上昇には、明確に五つの波(i~v)が確認されます。足元チャートは 8 月以来の下部トレンドチャネルを明確に割り込んでおり、このことは五波構成による上昇トレンドの終了および、下降トレンドの開始を示しています。

41,704ドル(10/31 安値)からの第 ii 波リバウンドは、42,326ドル(11/1 高値)を以て終わったか—第 ii 波は第 i 波のちょうど 38.2%戻りでした—終わりつつあるとみられます。

いよいよ米大統領選の投開票日(11 月 5 日)を迎えますが、その結果に関わらず、**近日中に NY ダウは第 iii 波による下落基調が強まる可能性があります。**

NY ダウは第 iii 波により短期的にも、**[40,912 ドル-40,342 ドル](8 月からの上昇に対する 50%-61.8%押し)**を試すでしょう。

[40,448 ドル]…10 月高値からの下落幅が、7 月から 8 月にかけての下落幅(2877 ドル)と等しくなる水準。これを明確に下回ると、その先に一段と大きな調整へ発展する可能性が高まります。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

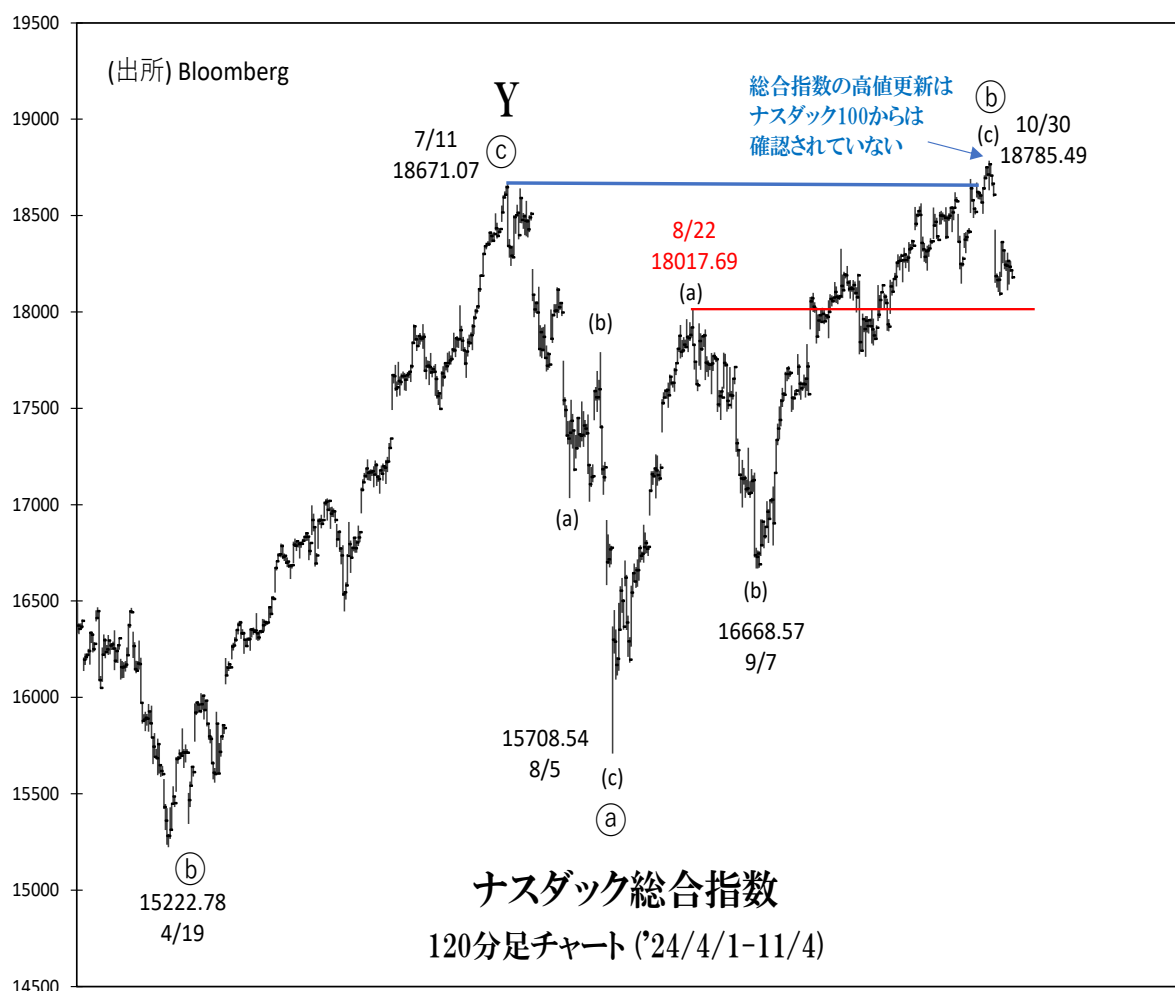
22 年 12 月安値(10,207)以来、(B)波による上昇が進行中です。この(B)波は[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]を形成し、25 年まで続くでしょう。

18,671(7/11 高値)より、X 波による調整が進行中とみられます。X 波は[トライアングル]か、[フラット]を形成中と思われます。8 月安値からの X 波中⑥波のリバウンドは 10 月高値(18,785)で終わった可能性があります。

足元、◎波による下落が始まったとみられますが、23 年 10 月安値(12,543)と 24 年 8 月安値(15,708)を通る、上昇サポートライン※は維持されると思われます。

※11 月第 2 週(11/4～11/8)のサポートライン水準…[16,717]

反面、サポートラインを終値で明確に下抜くと、18,671(7/11 高値)から既に(C)波による下落トレンドに入っている、という見方が台頭し、ナスダックは中期的に[12,547]を目指す可能性があります。



【時間足 エリオット波動分析】

7 月高値からの X 波は[フラット]か、あるいは[トライアングル](a)-(b)-(c)-(d)-(e)を形成中と思われます。

15,708(8/5 安値)からは、三波構成による⑥波のリバウンドに位置付けられます。

10 月 30 日にナスダック総合指数は一時 18,785 まで上昇、最高値をさらに更新しましたが、ナスダック 100 は 7 月高値を上回っていません。つまり総合指数の高値更新は、ナスダック 100 によって確認されていません。

10 月 31 日の大幅安により、これら二つの指数の両方が、10 月 23 日の安値(総合指数で 18,146、ナスダック 100 では 19,934)を下抜きました。この動きにより、両者の「未確認」という弱気パターンが確定し、調整局面入りとみることができます。

目先 18,017(8/22 高値)を割り込むと、それを契機に総合指数は[17,610-16,883](8 月からの上昇に対する 38.2%-61.8%押し)へ下値模索開始となるでしょう。この 61.8%押し水準[16,883]は、先に書いた 23 年 10 月来をサポートライン水準に近似となっています。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)からは⊗波の「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成していくでしょう。161.938 円(7/3)は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

11 月中、①の水準は 135.145 円に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。11 月を通じ、②の水準は 115.520 円となっています。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。ちなみに C 波の長さは A 波と同等か、フィボナッチ比率関係を反映します。

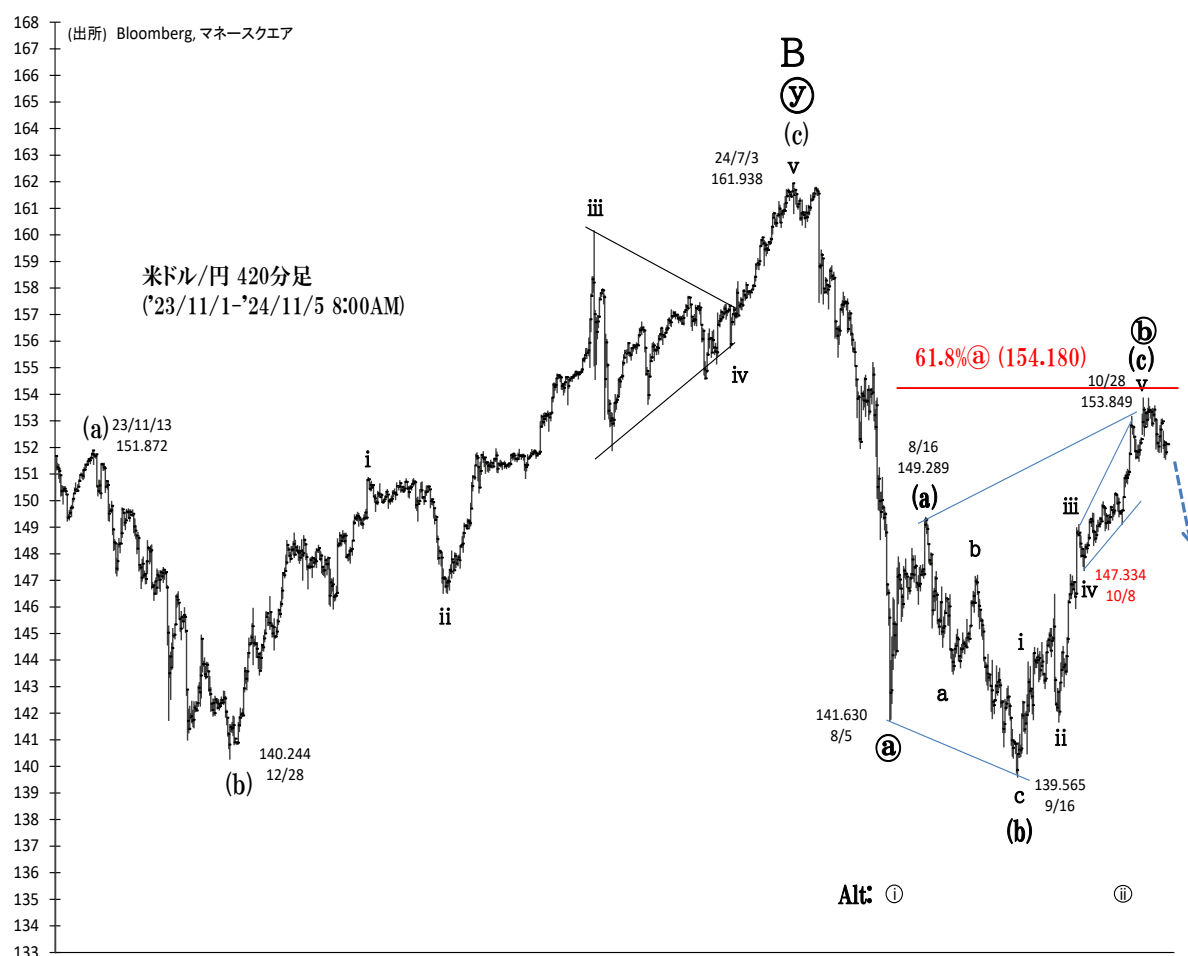
[137.197 円]…A 波の長さ(24.741 円)=C 波の長さ

[131.358 円]…A 波の長さ×1.236=C 波の長さ(30.579 円) (※)この時点でドル/円は月足サポート①を明確に下回り、以下の水準を目指す可能性が高まります。

[127.745 円]…A 波の長さ×1.382=C 波の長さ(34.192 円)

[121.907 円]…A 波の長さ×1.618=C 波の長さ(40.030 円)

ちなみに 23 年後半からのパターンが、140 円処をネックラインとする『ヘッド・アンド・ショルダーズ(三尊天井)』だとすると、天井パターンにおける右肩トップ出現後、ドル/円は下落に転じるでしょう。さらにはネックライン割れをきっかけに、ドル安・円高の流れが強まると想定されます。



【時間足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)からはⓈ波によるリバウンドであり、そのパターンとして「エキスパンディッド・フラット」(a)–(b)–(c)を想定しています。139.565 円(9/16)からはⓈ–(c)波に相当します。

ドル/円の直近高値(153.849 円、10/28)は、以下チャート節目に近似となっており、Ⓢ波は終わった可能性があります。

[153.391 円]…161.938 円(7/3)→139.565 円(9/16)の 61.8%戻り

[154.180 円]…Ⓢ波によるドル安・円高の 61.8%戻り

そうであれば、今後Ⓢ波のドル安・円高基調が強まり、それはまず[137.197 円]を試すでしょう。

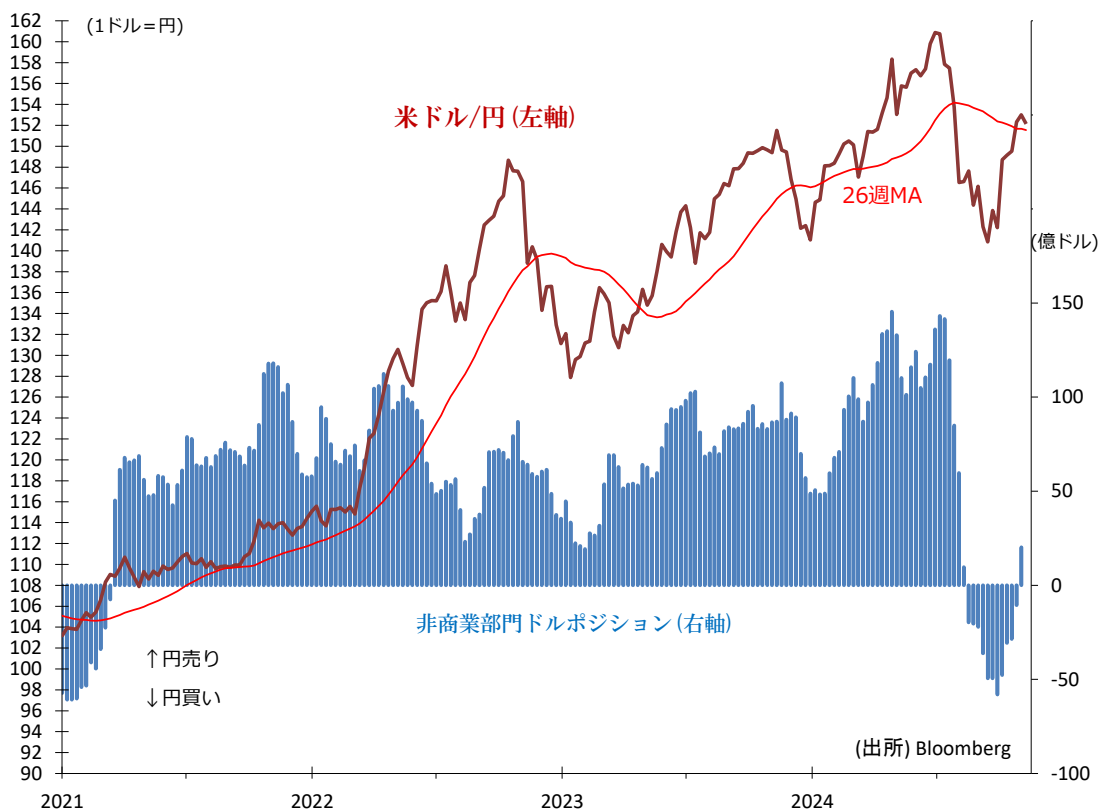
投機筋は円売り持ちに転じる

IMM 通貨先物市場での非商業部門(投機筋&ヘッジファンド)は、10 月 29 日時点で 2.48 万枚(20.26 億ドル)の円売り持ちとなりました。円売り持ちに転じるのはおよそ 3 カ月ぶりです。

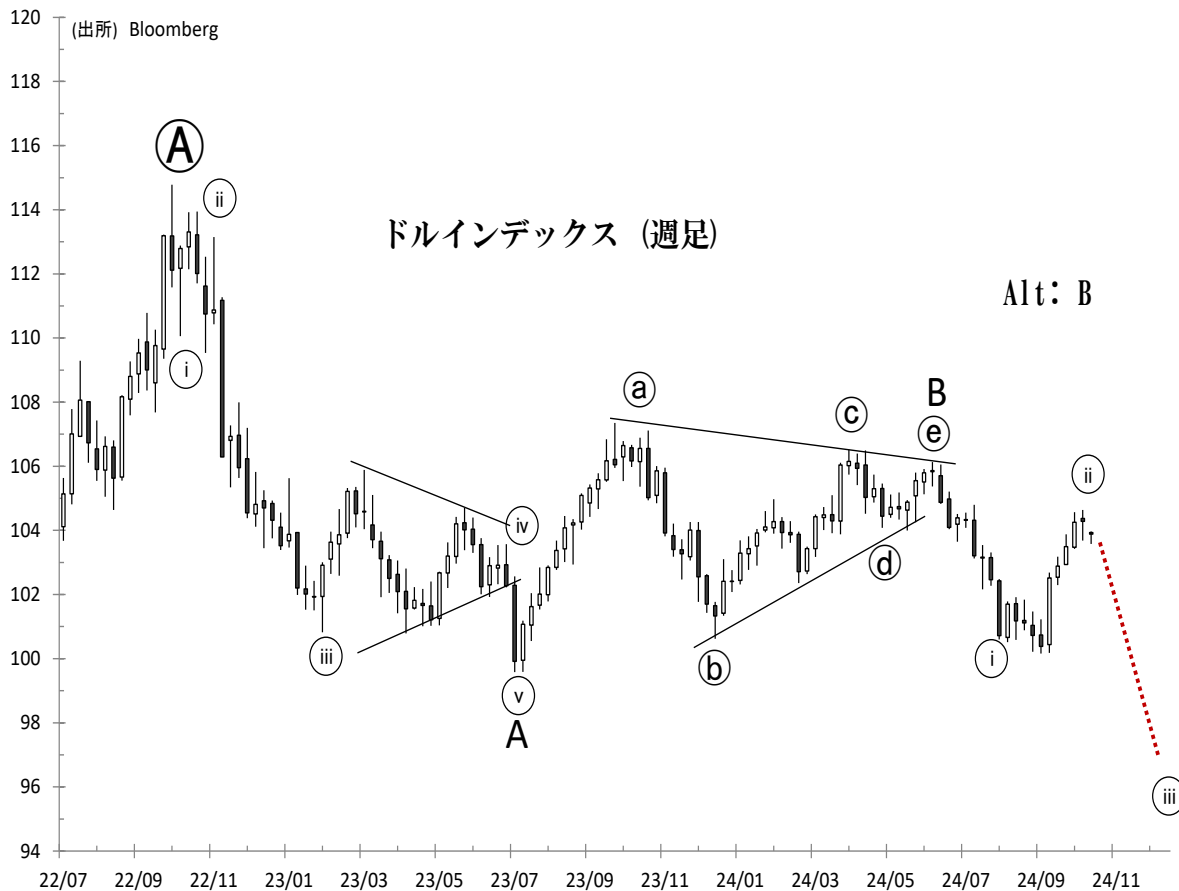
投機筋ポジションが円買い持ちから円売り持ちへ変わったのは、ドル/円が 26 週 MA を上抜くタイミングにほぼ一致しており、投機筋が 26 週 MA を売買判断基準に利用していることが伺えます。

今後もドル/円が 26 週 MA(151.540 円)を維持する限り、投機筋による円売り傾向は続くと思われる、需給面でドル/円を下支えすることになりそうです。

その反面、26 週 MA を下抜くケースでは、投機筋の円買い・ドル売りの動きが再開し、ドル/円の下げ基調も再開すると思われます。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値 (114.778) 以来、ドルインデックス (ドル指数) は B 波による下落局面にあります。B 波は三波構成 (A-B-C) です。

106.130 (6/26) 以来、C 波によるドル安基調が進行中です。この C 波は五波構成 (マル i~マル v) となります。9 月末からのドル反発は C 波-マル ii 波に位置し、それは米長期金利高とリンクしています。

ドル高・金利高は短期的にも終了し、マル iii 波によるドル安が始まる可能性があります。このマル iii 波によりドル指数は、23 年安値 (99.578) を大きく下回るでしょう。

足元は投機筋のドル買いが強まっています。IMM 通貨先物の非商業部門による米ドルネットポジション (対主要 8 通貨) は、2 週連続で買い持ちとなりました (10 月 29 日時点)。もう少しドル高が続くなら、23 年 7 月安値 (99.578) からの B 波は「フラット」を形成中とみられます。足元のドル高は B-© 波に当たり、それを以て B 波終了となります。

いずれにしても、全体としての流れがドル安、という基本観は変わりません。

© 波は最終的に、[90.930]、[89.209] を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、A 波のレサラー・ディグリー (4) 波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
